

郷土館 発

ふるさと再発見

和紙のこいのぼり

四月のある日、地元清崎の方から「かつて、近所に住む人が郷土館に寄贈した大正時代のこいのぼりがあるはずなので、こどもの日に合わせて展示できないか」という問い合わせがありました。さっそく確認してみると、田口の旧郷土館に保存してありました。

すぐに新郷土館に運び、状態を確認し展示しました。大正五年（一九一六）に男児が生まれた祝いに贈られたものだということ、現在では見られない和紙製であるということなどから心配されましたが、状態よく保



存されていました。

こいのぼりといえば屋外に飾るもの。風雨にさらされて当たり前。そして、長い年月。よく残っていたものです。

中日新聞記事（平成二十七年六月二十日）より。一部の情報は省略。

和紙で作った巨大なこいのぼりが、設楽町清崎のHMさん（九〇）方で見つかり、十九日、町立奥三河郷土館に寄贈された。

長さ六・二メートル、最大幅一・二メートルの真っ赤な緋鯉。百年ほど前に作られたという。（中略）

現在のスマートなこいのぼりと異なり、形状は実物に近い。紙のため「雨が降ると急いで取り込まねばならず、大変だったそうです」。破損や虫に食われた跡が所々に見られるが、ほぼ当時の姿を保っている。

こうした、貴重な資料がまだまだ郷土館にはあります。ぜひ、身の回りの様々な情報をお寄せ下さい。そして、奥三河郷土館に足を運んでいただき、ふるさとを再発見してほしいと思います。

（奥三河郷土館館長 氏原周次）